

『都市の経済学 小テスト No. 5』

以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。※□で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

- 土地市場の分析を行う前に複数の仮定を置いているのは、仮定を置くことによって、属性の□1 (○1) ①同じ、②等しい、③異なる、④その他) 土地を□2 (○1) ①同質に、②異質に、③上質に、④その他) するためである。これによって、土地をこれまでのミクロ経済学で学んだような一つの市場に表すことができる。
- 地主は、自分の所有している土地を貸す際にどのような人に貸し出すのか？
□3 (○1) ①安全に、②問題を起こさずに、③安く、④高く、⑤その他) 借りてくれる人
- 土地サービスを消費する家計は、予算制約を考慮しつつ、可能な限り□4 (○2) ①安い、②高い、③異なる、④その他) 地代を提示して、効用水準を□5 (○3) ①等しく、②変化、③最大化、④最小化) する。
- 上記のように、家計が提示する地代を□6 (○3) ①市場価格、②市場地代、③付け値地代) と呼ぶ。
- 予算制約線の傾きは、□7 (○5) ①消費する財の組、②土地サービス量、③合成財価格、④地代、⑤付け値地代) を表す。
- 土地市場の均衡では、一ヶ月当たりの交通費が3万円と5万円の場所における両者の効用水準は□8 (○3) ①3万円の場所が高くなる、②5万円の場所が高くなる、③等しくなる、④その他) 。
- 問6の「交通費が3万円の場所での効用の変化」について考えてみよう。
地代が他の場所と同じならば、交通費の安い3万円の場所に人が集まる。このとき、その場所の土地サービスに対する需要曲線は□9 (○3) ①移動しない、②左にシフトする、③右にシフトする) ため、均衡地代が□10 (○2) ①変化しない、②上昇する、③下落する)。この結果、個人の予算制約線は□11 (○2) ①変化せず、②左にシフトし、③右にシフトし)、それに接する無差別曲線も□12 (○2) ①変化しない、②左にシフトする、③右にシフトする) ことから、この地点に居住することで得られる効用水準は□13 (○3) ①変わらない、②高くなる、③低くなる、④その他)。
- 土地市場の均衡では、地主の合理的な行動を前提としているため、任意の立地点において支払う地代は、効用水準を満足させるとともに、可能な限り□14 (○2) ①安い、②高い、③異なる、④その他) 付け値地代を提示することが必要である。
- 土地市場の均衡では、効用水準を満たす消費を行いつつ、かつ予算制約線の傾きを□15 (○1) ①最大、②最少、③その他) にすることが、家計の選ぶ最適な条件である。図で表すと、与えられている無差別曲線と予算制約線が□16 (○3) ①交わらない、②交差する、③接する) ことになる。
- 家計が3万円の場所よりもCBDに近い場所に立地したとしても、問9のロジックは同じである。つまり、交通費は□17 (○2) ①高くなる、②安くなる、③変化しない) ため、合成財と土地サービスの消費に利用できる予算は□18 (○1) ①増加する、②減少する、③変化しない)。そのため、予算制約線と縦軸との切片が□19 (○1) ①上に移動する、②下に移動する、③変化しない) もの、最適な消費の組

裏に続く

わせと最適な付け値地代を提示するためには、問 9 のように行動することになる。

11. 土地市場の均衡では、家計の立地点が変化すると最適な消費の組合せと最適な付け値地代は変化する。CBD からの距離が遠ざかるほど、最適な土地サービスの消費量は (①小さくなる、②大きくなる、③その他)。また、CBD から遠ざかるほど、最適な付け値地代は (①小さくなる、②大きくなる、③その他)。これは、実際に観察される地代および面積の関係と (①異なる、②同様である、③その他)。